

群馬県議会 リベラル群馬

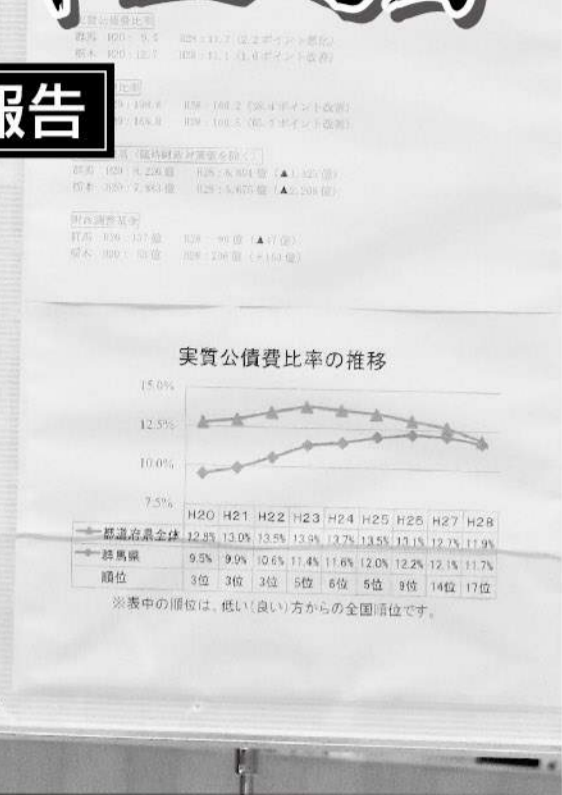
# 後藤かつみ

## 2018年第3回定例会報告

街頭演説  
**3000日**



**次世代のために持続可能な財政を!**  
かつては全国トップの健全度を誇った本県の財政も、その「貯金」を取り崩し続けている。「タブー」化しつつある財政問題に切り込む。



### CONTENTS

- I 県財政、「2つの現実」を直視せよ
- II 山村振興「関係人口」の視点から
- III ゴミ減量化 先進事例を「点」から「面」に
- IV 「ハンドル役」としての機能発揮 ～県産木材利用促進条例～

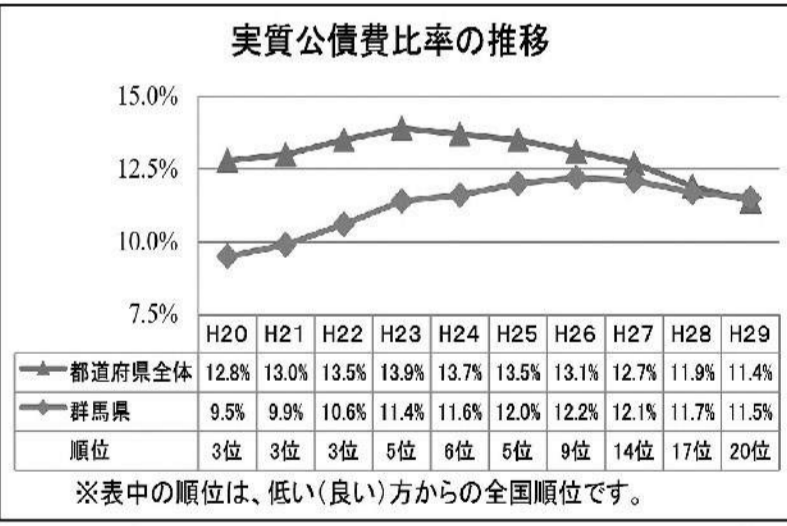
発行 リベラル群馬 後藤かつみ事務所  
 住所 高崎市八幡町 800-24  
 TEL&FAX 027-343-1393  
 e-mail ccrgoto@af.wakwak.com  
<http://www.ccrgoto.com/>  
<http://www.eaglesgoto.com/>(スマートフォン用)

## 県財政、「2つの現実」を直視せよ

**過去の「貯金」を取り崩している現実**

今議会で一般質問に立った後藤が切り込んだ「タブー」の課題が「財政問題」。

大澤県政となって以降、かつては全国トップを誇った財政の健全度は別図の「実質公債費比率(借金がどれだけ財政の負担になっているかの指標)」の推移を見て明らかかなように、全国順位を大きく下げています。大澤県政の「積極財政」が、過去の健全化努力による「貯金」の取り崩しの上に成り立っている現実を指摘しました。



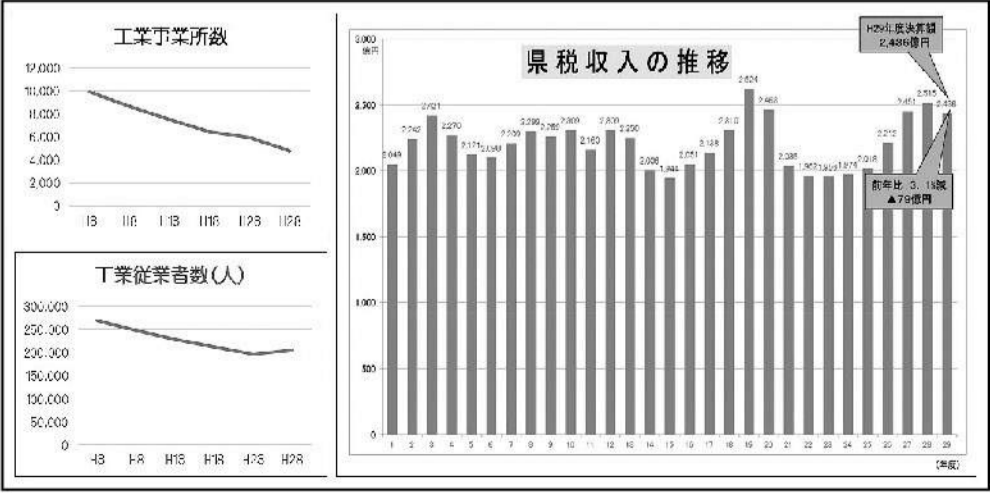
この10年で大きく悪化し、全国平均すら上回る水準

**「積極投資」が経済成長に結びついていない現実**

しかし、県議会の多数意見は、「積極財政で県経済の発展を」というものです。一見その通りと思える理屈ですが、残念ながら平成以降、現実はそのようになっていません。

本県は平成以降、一時は2000億円の規模の公共事業費を計上していた時

期もあり、少なくとも30年間で数兆円規模のインフラ整備を進めてきたことを考えれば、本県の経済は大きく成長しているはずですが、別図で明らかかなように、製造業数・従事者数ともに右肩下がり。税収も多少の波はあるものの殆ど変わっていません。



積極的なインフラ整備とは裏腹に、ものづくり産業は縮小し続け、県税収入も平成以降伸びていないという現実を直視せねばならない

**次世代に「余力」を残すことも重要な政策選択**

これらの現実が示しているのは、次世代の税金を現世代が借金で「先食い」し続けている現実には他なりません。

後藤は、次世代の税金は次世代が使う道を決められるよう「余力」を残してあげることも重要な政策選択であること。それは、公共事業を大型・新設重視から生活型・維持管理重視への転換、また「人への投資」に繋がるソフト事業重視への転換を進めることによって実現可能であると提言しました。